

教科目名 応用物理 I (Applied Physics I)

学科名・学年 : 機械工学科 3 年, 都市システム工学科 3 年

単位数など : 必修 2 単位 (前期 1 コマ, 後期 1 コマ, 授業時間 46.5 時間)

担当教員 : 上杉美穂子(3M) 工藤康紀(3C)

授業の概要				
物理学の基礎の一つである電磁気学を学習する。電気と磁気の性質を理解する。さらに、電気と磁気が一見別のものに見えるが、電磁気としてまとめられることを理解する。多くの電磁気的現象に触れるようにするために、授業中に演示実験をたくさんする。後期には応用物理実験を行い、電磁気だけでなくこれまでに学習した物理現象のいくつかを実験によって実際に確かめ、理解を深める。また、報告書の書き方を修得する。				
達成目標と評価方法		大分高専目標(B1)		
(1) 電界と磁界を通じて場の考え方が理解できる。(定期試験と課題)				
(2) 基本的な計算問題を解くことができる。(定期試験と課題)				
(3) 実験を通して、教科書で習ったことをより深く理解し、実験レポートの書き方を身につける。(実験レポート)				
(4) 物理的な見方、考え方を理解するとともに、問題集を使って自主的・継続的に学習ができる。(定期試験と課題)				
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検	
1	第 1 章 静電界	○電気のものである電荷の存在を知り、電荷間に作用するクーロン力を理解する。 ○電界を定義し、場の考え方を身につける。 ○電位によって位置エネルギー的な概念の再確認をする。 ○電気容量の概念を身につけ簡単な計算問題が解ける。	【理解の度合い】	
2	1.1 静電気力			
3	1.2 電界とその性質			
4,5	1.3 電位差とその性質			
6	1.4 コンデンサーの性質とその			
7,8	接続方法			
9	前期中間試験			【試験の点数】 点
10	前期中間試験の解答と解説			【理解の度合い】
11	第 2 章 直流	○電流が電荷の流れであることを理解し、妨げるものとしての抵抗を確認する。オームの法則を理解する。 ○キルヒホッフの法則を理解する。 ○電流と仕事の関連付けをし、簡単な直流回路の計算ができるようにする。	【理解の度合い】	
12	2.1 電圧と電流			
13	2.2 直流回路			
14	2.3 電流のする仕事			
15	2.4 半導体と半導体素子	【試験の点数】 点		
16	前期期末試験			
17	前期期末試験の解答と解説	○実験テーマ(次の中から3つのテーマを選んで実施する) 直線電流による磁界、比電荷の測定、コンデンサー、ニュートン環、ボルダの振り子、熱電対、地磁気の水平分力、光の波長測定 ○磁石による磁界を理解し、その間に働く力を理解する。 ○電流によって磁界が発生することを理解する。○さまざまな形の電流が磁界から受ける力を理解する。 ○磁界の変化によって電流が発生することを理解する。	【理解の度合い】	
18	応用物理実験 : 実験の説明・レポートの書き方の説明			
19	1. 実験第一回			
20	2. 実験第二回			
21	3. 実験第三回			
22	第 3 章 電流と磁界			
23	3.1 磁石による磁界			
24	3.2 電流による磁界			
25	3.3 電流が磁界から受ける力			
26				
27	第 4 章 電磁誘導	【試験の点数】 点		
28	4.1 電磁誘導			
29				
30	後期期末試験	【試験の点数】 点		
	後期期末試験の解答と解説			
履修上の注意	教科書だけではどうしても理解が深まらないので、問題集を課し適宜宿題としたり教室で解答したりする。		【総合達成度】	
教科書	和達三樹・小暮陽三、「高専の物理 第5版」、森北出版。 田中富士男 編、「高専の物理問題集 第3版」、森北出版。			
参考図書	高校の「物理 I, 物理 II」の参考書。			
自学上の注意	問題集専用ノートをつくり、自ら進んで問題集の A と B の問を解く。			
関連科目	物理 I, 物理 II, 応用物理 II, 物理学			
総合評価	達成目標の(1)~(4)について3回の試験、課題及び実験レポートで評価する。総合評価=0.70×(3回の定期試験の平均)+0.30×(実験レポート点, 課題点) ただし、実験レポート3回のうち2回以上不合格のまま点検期間を過ぎた場合は未修得とする。また実験レポート点が規定の6割未満の場合も未修得とする。総合評価が60点以上を合格とする。再試験は年度末の再試験期間に1回のみ実施する。受験資格は、限定しない。			【総合評価】 点